

19年3月分

まず支払子形をなくし無借金を目指す

一般的に優良会社の条件として無借金であることがあげられます。しかし、無借金会社にも、支払子形がある無借金会社。決算期末のみ預金で借入金も返し、無借金にする会社。預金が借入金より多い実質的無借金会社があります。支払子形と借入金どっちを早くなくすべきかは当然支払子形です。会社は振り出した子形が落とせないうちに全ての銀行と取引停止になり倒産します。銀行に借入金が返せなくてもその銀行のみリスクシールの交渉すればよいわけですが、どすか、支払子形の無い会社は倒産する確率は低いわけですが。反対に無借金でも支払子形の多い会社は、子形を落とすため資金が必要なとき、銀行との借入実績、返済実績がないため資金調達が出来ず倒産する確率が高くなります。支払子形はなくなりほうが安全です。ではどうしたら支払子形をなくせるか考えてみます。年高15億、仕入12億(月債受取子形4億、支払子形3億)の会社があります。支払条件は全て3ヶ月の子形です。損益から見ると、子形払を現金払にすると、子形の中には利息や危険負担リスク料があり、また子形割引の枠が増え、他の子形を割引できるので仕入先は3ヶ月位の子形なく、2%位は値引き交渉が出来ます。年高仕入12億なく、2%として①年高2,400万円仕入値引が出来ます。この支払子形3億円を何で調達するかは気をつけて下さい。長期借入金で調達すると、5年なく、年高6,000万円の返済。この原資は利益なく1億円以上の利益の増加が必要です。普通は無理です。では全て短期借入金なく、金利3%として②3億×3%=900万円の利息で①-②で年高1,500万円の差引利益増加ですが、いつまでも借金が減らないのでは、会社の体質はよくなりません。そこで資金別貸借対照表をイメージして下さい。(1)現預金で2,000万円 (2)売上仕入資金で3,000万円 (3)短期借入金で1億円 (4)割引子形で1億円 (5)長期借入金で1億円その他にも固定資金の運用の部かじの資金調達も考えます。支払子形を退治することはキセジエフローに大きな影響を与えますので資金の調達方法に注意して下さい。

何故無借金を目指すのか、それは、会社の利益とお金の流れが近づくので数字に弱い中小企業の経営者にわかりやすく、会社がつぶれないう体質になるからです。世の中には、家賃を払うのはむたいながらと自社の工場、店、本社を持つたがる経営者の方は多いのですが、自社の物件を持つと、負債しているときより税金を含めてはるかに多くの支出になります。そして見せかけ上の利益は出るので経営者が儲かっていると錯覚してしまいます。私は大きく成長しようとする会社は借金は絶対必要だと思っています。また内部蓄積の厚い会社が自己資金を補てんして設備投資するための借金も必要だと思っています。安定成長を目指す多くの中小企業は長期的に無借金を目指すべきです。経営者の皆様、資金別貸借対照表の借入金を消して0と記して下さい。その資金を何で調達するか、イメージして下さい。未来のバランスシートを。未来のバランスシートを作るのは、経営者のイメージ力です。決意です。そのために経営計画が絶対必要です。数年後に支払子形ない、借金なし、預金数億円の会社をイメージして下さい。見えるはずですが、社長と社員の幸せそうな笑顔が。

古田士 嵩